

第10 調布市福祉人材育成センターの運営

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	調布市福祉人材育成センターの運営 (重点項目)		市	市	○

1 福祉人材の養成

結果の概要

- 新型コロナウイルス感染症のため、同行援護従業者養成研修（一般課程・応用課程）、知的障がい者（児）移動支援従業者養成研修（1回目）、調布市高齢者家事援助ヘルパー養成事業（1回目、2回目）、医療的ケア支援者養成研修（2回目）が中止となった。また、例年より定員を少なくしたため、資格研修全体の受講者数は昨年よりも少ない67人にとどまった。一方、定員充足率は82%で昨年よりも13ポイント上昇している。
- 介護職員初任者研修ではホームヘルプ同行実習を、知的障がい者（児）移動支援従業者養成研修では現場実習を中止し、演習プログラムで対応した。
- 重度訪問介護従業者養成研修は、サービスの内容をわかりやすく伝えるために「福祉のおしごと講座 障がい者の日常生活支援編」という名称で広報を行った。参加者は7人で昨年と同じだった。
- 新型コロナウイルス感染症のため、保育のおしごと相談・面接会（1回目）は中止となった。1月に実施したものの、参加者は6人にとどまった。
- 福祉のおしごと相談・面接会では昨年度よりも参加者が21人少ない38人だったが、就職者は7人で就職率は18%だった（昨年度は20%）。

実績等

○資格研修の参加状況

講義	実習	内容	講師	受講者 (定員)	定員 充足率	修了者
2/17～ 2/20		同行援護従業者養成 研修一般課程	・東京都盲人福祉協 会職員2人 ・他外部講師3人	中止 (12)	中止	
2/26 2/27		同行援護従業者養成 研修応用課程	・東京都盲人福祉協 会職員2人	中止 (12)	中止	
9/14～ 11/20	10/19～ 11/6	介護職員初任者研修	・調布ゆうあい福祉 公社職員5人 ・調布市ちょうふの 里職員7人 ・他外部講師12人	16 (16)	100%	16
6/6 6/7	6/13or 6/20	知的障がい者（児） 移動支援従業者養成 研修（第1回）	・調布市社会福祉事 業団職員4人 ・他外部講師4人	中止 (20)	中止	
11/28 11/29	12/6 (演習)	知的障がい者（児） 移動支援従業者養成		16 (16)	100%	16

		研修（第2回）				
10/31 11/1	11/5～ 12/28	重度訪問介護従業者養成研修	・ 調布市社会福祉事業団職員 2 人 ・ 他外部講師 3 人	7 (15)	46%	7
12/10～ 12/16		行動援護従業者養成研修	・ 外部講師 8 人	24 (24)	100%	24
5/20～ 5/29	6/1～ 6/19	調布市高齢者家事援助ヘルパー養成研修（第1回）	・ 調布ゆうあい福祉公社職員 5 人 ・ 他外部講師 6 人	中止 (16)	延期後 中止	
1/13～ 1/21	1/21	調布市高齢者家事援助ヘルパー養成研修（第2回）		中止 (16)	中止	
10/3 10/4	実地研修 10/5～ 12/25	医療的ケア支援者養成研修（特定の者）（第1回）	・ 外部講師 2 人	4 (10)	40%	4
1/30 1/31	実地研修 2/1～ 3/25	医療的ケア支援者養成研修（特定の者）（第2回）		中止 (10)	中止	
合計				67 (81)	82%	67

定員の合計は中止となった研修を除く。

○資格研修受講者の概況

①参加人数と定員充足率の推移（過去3年）

	平成 30	令和元	令和 2
同行援護（一般課程）	16 (100%)	16 (100%)	
同行援護（応用課程）	16 (100%)	16 (100%)	
介護職員初任者研修	20 (100%)	19 (95%)	16 (100%)
移動支援	38 (95%)	27 (67%)	16 (100%)
重度訪問介護	9 (60%)	7 (46%)	7 (46%)
行動援護	25 (62%)	20 (45%)	24 (100%)
家事援助ヘルパー	14 (23%)	18 (45%)	
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	4 (40%)	7 (35%)	4 (40%)
合計	142 (65%)	130 (69%)	67 (82%)

②令和2年度受講生性別・平均年齢

	男性	女性	平均年齢
同行援護（一般課程）			
同行援護（応用課程）			
介護職員初任者研修	3	13	47.1
移動支援	1	15	47.9
重度訪問介護	1	6	40.4
行動援護	7	17	43.9
家事援助ヘルパー			
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	1	3	54.5
合計	13	54	46.7

③令和2年度新規活動者数（新規・継続）

新規：資格をいかして事業所に登録した者、新たに福祉分野で活動を開始した者

継続：福祉職として継続して従事している者

その他・不明：無職、福祉職以外の職を継続従事している者、その後の活動が不明の者

	新規	継続	その他・不明
同行援護（一般課程）			
同行援護（応用課程）			
介護職員初任者研修	5	6	5
移動支援	2	12	2
重度訪問介護	0	2	5
行動援護	0	20	4
家事援助ヘルパー			
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	0	4	0
合計	7	44	12

④令和2年度受講生の受講動機（複数回答）

	資格を取得して就労したい	現在の業務に役立たい	介護・障がいについて学びたい	高齢者・障がい者（児）を支援したい	地域の役に立ちたい	その他
同行援護（一般課程）						
同行援護（応用課程）						
介護職員初任者研修	11	5	15	9	8	1
移動支援	7	9	11	10	6	0
重度訪問介護	2	1	6	5	2	0
行動援護	7	16	18	15	6	0
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	1	4	0	0	0	0
合計	28	35	50	39	22	1

○就労支援事業の概況

日	時間	内容	出展事業所	参加者	新規就労者数
1/24 (日)	14:00～ 16:00	保育のおしごと相談・面接会	4	6	1(16%)
11/21 (日)	14:00～ 16:00	福祉のおしごと相談・面接会	13	38	7(18%)
合 計			17	44	8(18%)

○就職説明会の参加者の現在の仕事

	保育職	福祉職	医療職	調理師・栄養士	学生	それ以外（無職含む）
保育のおしごと相談・面接会	3	0	0	0	1	2
福祉のおしごと	0	10	1	0	0	25

相談・面接会						
合計	3	10	1	0	1	27

○就職説明会の参加者の保有資格（複数回答）

	保育士	初任者	介護福祉士	社会福祉士	看護師	それ以外 (無資格含む)
保育のおしごと 相談・面接会	2	0	0	0	0	4
福祉のおしごと 相談・面接会	5	6	10	5	1	8
合計	7	6	10	5	1	12

分析・課題

- コロナ禍のため高齢者家事援助ヘルパー養成研修は1度も実施できなかった。今後、確実に実施できるような方法を検討したい。
- 介護職員初任者研修ではホームヘルプ事業所に登録した方が3人おり、ホームヘルプ実習を中止した影響は感じられなかった。一方、知的障がい者ガイドヘルパー養成研修では事業所に登録した方が2人にとどまり、現場実習が行えなかったことが影響したと考えられる。
- 重度訪問介護従業者養成研修はこれまで福祉職が業務に役立てるために参加することが多かったが、今回は福祉が初めての人が5人参加した。名称を「福祉のおしごと講座 障がい者の日常生活支援編」に変更したことが影響したと考えられる。
- コロナ禍であっても、身体的接触を伴う資格研修の申込への影響はあまりなかった。収入を得る手段として受講する経済的動機によるものか、やりがいや生きがいを求める内発的動機によるものかは不明だが、コロナ禍であっても福祉に関心を持ち資格取得を目指す人が一定数いることがわかった。

2 専門性の向上

結果の概要

- コロナウイルス感染防止対策、緊急事態宣言発令等あり、一部の研修をYouTube 利用による録画配信やZoomでのオンライン配信にて実施した。会場型研修は定員を減らして実施している。
- 階層別研修のうち、受講生のニーズを考慮し、初任者と中堅を「講義・マナー（初任者）・SST（中堅）」に分割して実施した。
- ダークサイド研修は、昨年度に中止したこと、1回目の人気が高かったことなどから、2回目を開催した。時間帯を変更し、業務の都合で参加できなかった人も参加しやすい形で実施した。
- 「記録の書き方」は、講師の県外移動を考慮し、Zoomを通して講義する形で実施。ブレイクアウトセッションを利用してグループワークを実施した。
- 「障がいのある方の地域生活とそれを支える制度やサービス研修A 当事者のお話編」は、当事者講師が複数名参加の予定であったが、緊急事態宣言発令により延期。しかし、その後宣言が延長したことによ

り、中止とした。

○「障がいのある方の地域生活とそれを支える制度やサービス研修B制度の説明編」は会場実施予定であったが、緊急事態宣言発令により、録画配信に変更して実施した。その分、定員以上の受講生を受け入れる事が出来た。

○「個別SSTの基本」「福祉職の連携について語り合う」は緊急事態宣言発令中に感染症対策を講じた上で実施した。「連携について語り合う」研修はキャンセルが多く、充足率は52%であった。

実績等

○専門研修の参加状況

①階層別研修

日	時間	タイトル	講師	受講者数 (定員)	定員 充足率
8/5 (水)	14:00～ 17:30	階層別研修 福祉職員 初任者研修 A 講義編	山本雅章氏 (調布市社会福祉事業団)	26 (25)	104%
8/6 (木)	14:00～ 16:00	階層別研修 福祉職員 初任者研修 B マナー編	大村逸子氏 (マナー講師)	18 (25)	72%
8/20 (木)	14:00～ 17:30	階層別研修 福祉職員 中堅職員研修 A 講義編	山本雅章氏 (調布市社会福祉事業団)	25 (25)	100%
8/27 (木)	14:00～ 16:00	階層別研修 福祉職員 中堅職員研修 B SST 編	清水有香氏 (精神保健福祉士)	9 (10)	90%
10/20 (水)	14:00～ 17:30	階層別研修 福祉職員 管理職研修	山本雅章氏 (調布市社会福祉事業団)	23 (25)	92%
合 計				101 (110)	91%

②テーマ別研修

日	時間	タイトル	講師	受講者数 (定員)	定員 充足率
9/12 (土)	14:00～ 17:00	発達障がい者支援の基本 (A:会場で受講)	新井豊吉氏 (福井大学大学院連合教職開発研究科准教授)	18 (25)	72%
9/28 (月) ～10/4 (日)		発達障がい者支援の基本 (B:通信で受講)	新井豊吉氏 (福井大学大学院連合教職開発研究科准教授)	50 (定員無)	
10/9 (金)	16:30～ 18:30	移動・移乗の技術研修	野原健吾氏 伊貝まゆみ氏 (デイセンターまなびや)	12 (20)	60%
10/27 (火)	17:30～ 20:00	福祉職員のダークサイドについて考える	結城俊哉氏 (立教大学教授)	24 (25)	96%
12/2 (水)	13:30～ 15:30	記録の書き方研修 ※オンライン研修 (ZOOM)	保正友子氏 (日本福祉大学教授)	24 (25)	96%
12/4 (金)	10:00～ 12:30	発達が気になる子どもの理解と対応	山中裕子氏 (カウンセリングステーション・ユー)	23 (25)	92%

1/6（水） ～2/5（金）		発達が気になる子どもの理解と対応	山中裕子氏（カウンセリングステーション・ユー）	42 （定員無）	
1/29 （金）	14：00～ 17：30	障がいのある方の地域生活とそれを支える制度やサービス研修 A 当事者のお話編【中止】	当事者講師 3 名		
3/1（月） ～3/31（水）		障がいのある方の地域生活とそれを支える制度やサービス研修 B 制度の説明編⇒オンデマンド配信に変更	障害福祉課職員	28 （定員無）	
3/5 （金）	10：00～ 12：30	福祉職員のダークサイドについて考える（2 回目）	結城俊哉氏（立教大学教授）	23 （25）	92%
3/16 （火）	13：30～ 16：00	個別 SST（ひとり SST）の基本	清水有香氏（精神保健福祉士）	10 （10）	100%
3/19 （金）	13：00～ 16：00	福祉職の連携について語り合う	長沼葉月氏（東京都立大学）	13 （25）	52%
合 計			定員無（会場型）	147 （180）	81%
			全体	267	

分析・課題

- 「管理職研修」は対象者が元々少ないことから申込が多くない。一方、「中堅研修」は対象者の範囲が広く申込が多いため、今後は細分化して実施することを検討したい。
- 「発達障がい者支援の基本」研修と「発達が気になる子どもの理解と対応」研修は会場型と録画配信型のハイブリット方式で実施した。会場型は講師の話を直接聞けてよかったという意見、配信型は感染症の不安がなく受けられるといった意見や好きな時間に受講が出来るという意見がアンケート結果から見られ、それぞれのニーズに合った形で実施することが出来た。
- 定員を少なくしたことやコロナ禍という状況から、会場型研修の参加者と定員充足率は昨年度とあまり変わらないが、配信型を含めた専門研修全体の参加者は 267 人で昨年度よりも大幅に増加した（昨年度 147 人）。
- 今後も内容によっては配信型の研修を積極的に実施し、コロナ禍でも学び続けられるような機会を設けたい。
- 配信型研修では、質問が出来ない、長時間視聴により集中力が欠けるなどの課題があるため、事前に質問を集めたり、講義の構成を工夫するなどを今後検討したい。

3 市民参入に向けた普及啓発

結果の概要

- ふくしの窓や市報、ホームページに研修案内の記事を掲載し、福祉分野への市民の参入を図った。
- ホームページにて当センター主催の研修と他機関主催の研修についての情報を一覧的に提供した。ま

た、市内の福祉・保育事業所の求人情報を掲載し、事業所と求職者が結びつくように支援した。

分析・課題

- 資格研修を受講し、福祉分野の就労や活動へとつながる方が多く、資格研修が福祉についての最初の学びの機会となっており、市民への普及啓発的な役割を果たしている。
- より福祉について興味や関心を持ち、深められるような普及啓発の方法について検討したい。

4 事業所あるいは職員間のネットワーク形成

結果の概要

- これまで集合形式で開催していたが、感染症拡大防止のためライブ配信とオンデマンド配信で開催した。参加者は107名で例年より少し多かった。

○フォーラムの内容

日	時間	タイトル	講師・報告者	参加者
2/14 (日)	13:00～ 17:00	第4回ちょうふ福祉実践フォーラム「多様な人たちが生きていける社会とは～新型コロナウイルスがもたらしたもの～」	基調講演 講師：平野方紹氏 第一分科会 「暮らしを支える地域活動」 ファシリテーター：小幡真也氏（フロリアル調布） 報告者：平野玲奈氏、北島正也氏 第二分科会 「地域での人とのつながり」 ファシリテーター：進藤美左氏 報告者：斉藤仁志氏、矢辺良子氏 まとめ 講師：結城俊哉氏	107
合 計				107

分析・課題

- 配信型で開催したことについて、参加者からは時間や場所にとらわれず参加できた、両方の分科会を聞くことができて良かったと好評であった。
- 分科会では保護司や不動産業者など福祉職ではない方が実践報告したことにより、福祉と課題を共有していることを発見できたという意見があり、福祉職の新たな学びとネットワークの構築につながったと思われる。
- 昨年度はワークショップという形で福祉職同士が交流できる機会を設けたが、初めて配信型で開催するということもあり実施できなかった。次年度は福祉職が学びを得て交流できる機会を検討したい。

5 運営委員会

結果の概要

○学識経験者、関係機関、各ネットワークの代表、当事者を委員として運営委員を開催し、事業運営についての意見交換を行った。

実績等

○調布市福祉人材育成センター運営委員構成（敬称略）

任期：平成31年4月1日～令和3年3月31日

氏 名	選出区分
結城 俊哉	学識経験者（立教大学教授）
伊藤 文子	市民有識者（調布訪問看護ステーション）
秋元 妙美	市民有識者（NP0 法人全国重度障害者支援協会 CIL ちょうふ代表）
進藤 美左	当事者又は家族会（調布市障害者（児）団体連合）
及川 正文	地域関係機関（調布ゆうあい福祉公社）
円舘 玲子	地域関係機関（調布市社会福祉事業団相談支援事業所「ちょうふだぞう」）
栗城 耕平	調布地域精神保健ネットワーク連絡会
亀田 良一郎	調布市福祉作業所等連絡会
佐藤 京鼓	調布市地域包括支援センター連絡会
小幡 真也	介護保険サービス事業者調布連絡協議会
森 純一	東京都福祉人材センター
松井 佳孝	行政（調布市高齢者支援室）
水谷 由紀	行政（調布市障害福祉課）
広田 茂雄	社協関係者（理事）
木内 洋	地域関係機関（調布市社会福祉協議会相談支援事業所「ドルチェ」）

○令和2年度調布市福祉人材育成センター運営委員会開催状況

回数	開催日	内 容	出席人数
第1回	中止	令和2年度研修案について意見書を取りまとめ	
第2回	9/16（水）	令和2年度上半期事業報告及び今後の予定、令和3年度事業計画作成に向けて	15
第3回	12/22（火）	9～12月事業報告、今後の予定	13
第4回	3/8（月） オンライン	12～2月事業報告及び今後の予定、令和3年度事業計画（案）について	14